新眞婦人

二月號

第八十二號

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正九年二月二十八日印刷納本
(大正九年一月一日發行(毎月一回一日發行)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕、但祭日及日曜の他

院長診察月、金、木午前及木午後六時

林、峰間、兩副長は目下當院に在勤

東京麴町三番町三十番地（市ヶ谷見附內）

東洋內科醫院

電話番町（六二番 五一六番）

院長 醫學博士 **高田畊安**

電話ちがさき二番 **南湖院**

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後入院診後應需

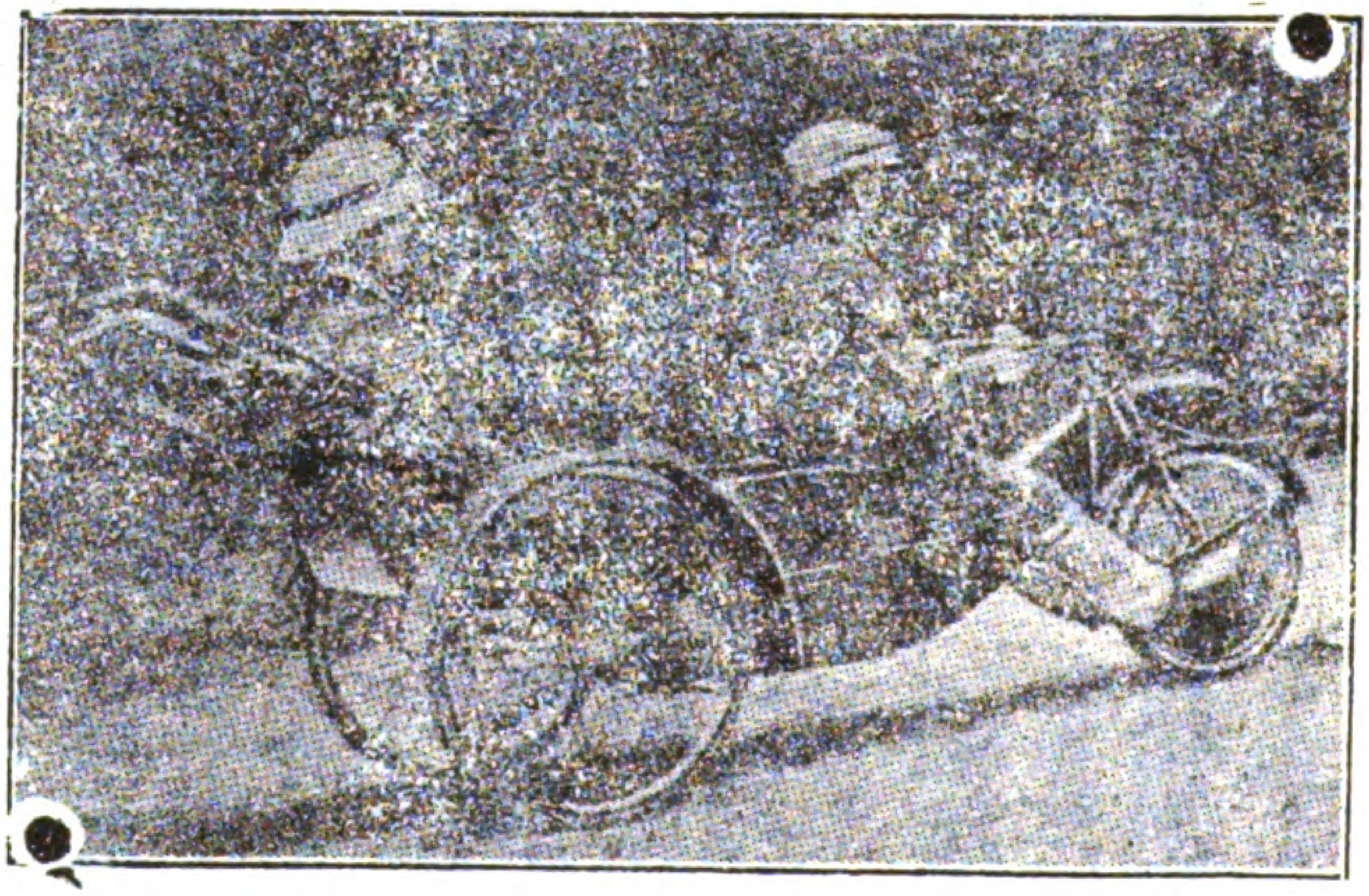
診察毎日午后、但祭日及日曜の他

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

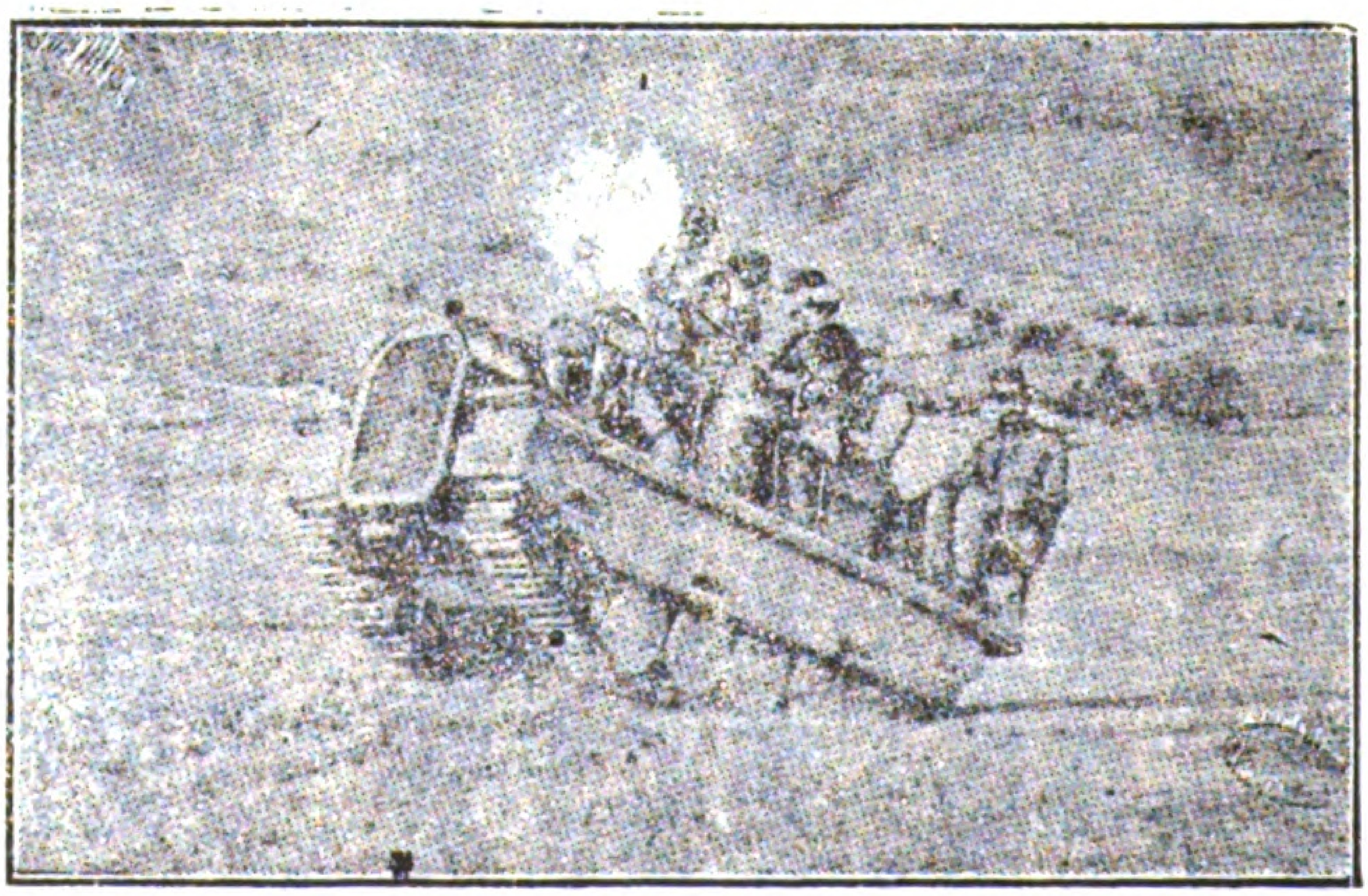
新眞婦人

二月號　八十二號



將來の人力車

之れは日本の陸軍士官の發明にかゝるものなるが、思ふに將來の人力車は皆なコウなることであらう。



タンクの應用

東佛蘭西のアルプス地方にては、戰時中に用ゐしタンクを應用して之れを山登りに使ひつゝありと云ふ。タンクはどんな山でも坂でも道のない所でも走れるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家族制度の將來

昔は大家族制度と云つて、一家の内に、夫婦と其の未獨立の子女ばかりでなく、三夫婦以上も同居して居たものである。今でも飛騨の山中、白川村には大家族制度の俤が殘つて居て、一家に三十七名も同居せるものありと云ふ。

○

併し此の大家族制度は、左の原因からして段々に崩解し、現今は小家族制度の時代である。小家族制度とは、夫婦と未獨立の其の子女とが一家に同居せる有樣を云ふのである。

大家族制度崩解の、第一原因は、昔は同じ土地を家族全體が耕し、若しくば家内工業を家族全體でして居たものであるが、それが段々出來なくなつて來て、家族が別々の仕事を爲すに至つたことである。第二原因は、絶對無限なりし家長の權力が、國家の干渉と、思想の變遷とで、段々減じられて來たことである。第三原因は家長が祖先祭祀の祭主たる地位の覆つたことである。

○

斯くして大家族制度崩解して、小家族制度となつたのであるが、大家族制度崩解の原因が更に進んで小家族制度をも崩解せしめずんば止まざるの勢を示しつゝあると共に、夫も妻も働かざるべからざる家庭にありては、食事も家庭でするよりは、簡易食堂でする方が便利となり小供の養育も家庭でするよりは託兒所なり幼稚園なりに托する方便利となり、入浴は錢湯、宿泊は旅舍、洗濯は洗濯屋に賴む方便利となり、又娯樂の如きも、家庭よりは倶樂部其他にて求むる方好都合と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なつて來て、家族制度の全然崩解すべき徴候が見へて來た、そこで子供は國家が責任を以て教養し、夫婦は愛の續く限りのもの、愛情が無くなれば、何時別れてもよろしいと論ずるのがあるに至つた。

○

物質的方面のみから觀察すれば、今やモウ家族制度の基礎は全然崩解したと云へよう。家族制度維持の理由なしと云へよう。併し精神的方面から觀察すると、尙ほ家族制度の基礎があると云へる。

何にが家族制度の精神的基礎かと云ふと、それは人間には、何者をも必要とあらば社會化し得べきも、之れ丈けは社會化することの出來ないと云ふ一つのものゝあることである。其の一つのものは何にか夫婦の愛である。

家族制度の根本的崩解を豫想すれば、妻女の共有までも豫想せねばならぬが、それは到底人間精神の許さぬことである。其の上に人間には小さな城廓を拵へて其の王たりたい、個性發揮の餘分の[illegible]と云ふ本能的の要求もあれば、家族制度の全然崩解することは斷じてないと確信する。

若し萬一、一時崩解することありとするも、其は眞に一時のことで、人間直ちに一切の社會化に堪へられなくなるに至ることであらう。

昔、スパルタのライカーガスは、人民全體に對して食事は凡て公立の食堂にて爲すことを命じ、如何なる人にも私宅での食事を許さゞることゝせしに、人々は之れを絕大の苦痛と感じ直ちに其の反動が來たではないか。

社會化歡迎は畢竟利己主義の橫暴に對する反動である。社會化過ぐれば人々は又社會の橫暴を叫ぶに至るであらう。

○

併しながら家族結合の外部的紐帶は、今や悉く切れて仕舞つて居るのであるから、今後は親子の間にも、夫婦の間にも、友情が一層大切になつて來たのである。從來は[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し、無理な夫をもどこまでも、夫として忍ばなければならなかつたのであるが、今やモウそうでなくなつて來たのであるから、親だからとて、夫だからとて無理をすれば家族關係は忽ち崩解してしまうのである。

○人類進歩の不充分なりし間は、家族の結合に外部の紐帶を必要とし、今や其の紐帶が不必要となつたから此等は切斷さるゝに至つたものであらう。茲でも私共は自然の妙用に驚く、理解の上ではソウと知りつゝも、私共には尙ほ古い感情が遺つて居て、やゝもすれば所謂親權を振り廻はさんとし、男は又やゝもすれば夫權を吹かさんとしたがる。此の點大に注意せなければならぬことであると思ふ。

○父母に對して、毛頭も反感なき子女にとりては、家庭は如何に樂しきものであらうか。夫に對して少しも反感なき妻にとつては、家庭程の樂園何所にあらうぞ。

右は法學博士河田嗣郎氏著「家族制度研究」を讀みて後に起つた、感想を筆寫したものである。家族制度と云ふことに就き、詳しく知りたい方に、此の書の一讀をおすゝめします。

日本婦人は
之れを何んとか見る
過激派露國の婦人

千九百十七年の露西亞革命は、三月の九日に婦人の一團が「パン要求」の示威運動を爲したに始まつたもので、佛蘭西革命が婦人の叫びから始まつたと其の揆を一にして居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同年五月ペトログラードに於て四千の洗濯婦のストライキがあつた。六月九日の軍隊非難の大示威運動も勞働婦人によつて爲されたものであつた。コロンテイ夫人は同年十一月の革命以後の中央行政委員の一人となり、其後外に二人の婦人も委員の中に加はることゝなつた。

革命以前、上流社會の人であつた婦人達は、今は多く教育事業に就事して居る。

革命の最初から婦人は諸種の重要なる仕事をしたが殊に衛生上の事には大に力を盡して居る。

人民の兵站部の委員長はコロンテイ夫人であつて、此の兵站部は啻に糧食のことに就てのみならず、姙婦の世話から、保護者なき子供の保護（私生兒、犯罪人の子供など）、及び小供を世話する看護婦、保母の養成までもして居る。

過激派の思想は小供を中心として居て『子供は世界の希望である』と云ふのが、其の標語であると云ふが

現にアサア●ランソム氏の、千九百十九年の露西亞の中にも、モスコウでは一萬八千の兒童が學校で無料で食物を與へられ、靴までも與へられて居ることを書いてある。

米國婦人勞働組合

千八百二十八年の十二月に、ニユハンプシヤイヤのドバーの紡績工場に働いて居ろ四百の工女がストライキしたのが、米國に於ける婦人勞働者ストライキの皮切りである。

千八百三十三年にリイン及びピシニチーの靴工婦がストライキした。千八百三十八年にはマサチユセエツ州ロウエルの紡績工女がストライキをした。此の頃には既に二千五百の會員を有する紡績工女の組合が出來て居た。裁縫婦の組合は之れより早く既に千八百二十五年には存在して居た。

千八百四十七年に、ニユハンプシヤイヤの州會で婦

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の勞働時間は十三四時間であつたのである。

けれども最初北部では、白人の婦人が紡績女工として働き、南部では黑人の婦人の働いて居たことが、全國的の婦人勞働組合を造るに就き第一の障害であつた。第二にはアイリイシユ、スペイン、獨逸、バルガンなどの婦人が入つて來て働くことが障害となつた。國の飾りに大き過ぐることは第三の障害であつた。

併し百年の努力空しからずして、今や米國の婦人勞働組合聯合會は六百萬の會員を有するに至つて居るのである。此の聯合會の發起で、先般のワシントンに於ける國際婦人の勞働會議が開かれたのである。

娘を教育した經驗から

三角錫

私に娘が二人ありますが、姉の方は一度呼吸器を病いましたので、高女三年で止めさせて、海岸におきましたが、もう只今は全快いたしまして、家事を手傳つて居ります。私がかう云ふ仕事をもつて居りますから何か爲る仕事があるだらうと思つて居ります。習字と裁縫をさせましてそれを敎へ且つ事務をも手傳はせればと思ひます。二十歲と云へばもう普通ならば結婚問題の起る年頃ですが、結婚は賣つて歩くものでも御座いませんし、他家ではそんな事があつても默つて結婚をおさせになるかも知れませんが、私は自分からはさうは申されません。それでも承知で結婚したいと仰しやる方で、本人も進んでゐればいつでもさせないとも限りませんが。

妹の方は只今山脇の四年で今年卒業で厶います。一體私は生じつか自分が敎育を受けた爲めに非常に苦しみましたから、娘は高女でも出れば直ぐ結婚させる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もよいと思つて居りましたが、娘は學校の成績は良い方ですが十八と云つても一向の子供で、まだ何も知りませんから、お茶の水の專攻科でもさせやうかと思つて居りますが、四年程度の高女卒業ではむづかしいかも知れません、さうすれば女子大學でも何でもよいと思ひます。尤も職業的にさせるのでムいませんから、良縁があればいつさせてもよいと思つて居ります。兎に角、適應される人間、彈力のある樣に丈けさせておきたいと思つて居ります。山脇にしましたのは四年制度と云ふのと歩いて通へる處と云ふ處から選びましたなか／＼貴族的で私どもにはふさはしくムいませんが學校を中途で替へるのは大變よくありませんと思ひます。私の學校に參つて居ります生徒でも、父兄が學校を替へる話をし出すと、其の生徒の樣子で直ぐに分ります。それが善い生徒でも著しく惡くなります。

學校は家庭からあまり近過ぎても、寄宿舍にゐる樣で見聞が狹くなります、途中は危險もムいますが、その間に社會を觀察し、益する事が大變にあると思ひますが、よほど注意しなければなりません。不良少年は實に恐ろしいもので、一人でも一度もそれ等のものにつけねらはれぬものはないと云つてもよい位でムいます。で秘密と云ふものが一つもない樣に何もかも話さすことにしておいて、保護をしたり、教訓を與へておく事が必要です。

伊豆のいでゆの旅の十日を
湯にひたり、物も思はであけくれぬ

三角錫

○

現身の影相似たる兒ら並べて、むかふ初日に涙こぼるゝ
春らしき四つ咲く楪に吾兒らの、品をたぐへてこの年を祝ぐ

但村はつ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どう云ふ人が自殺するか

醫學士 森田正馬

自殺の原因を調査して、あれは主人に叱られてぢや、これは繼母にイヂメられてぢやと云ふのは、それは外部からの觀察である。根本的に調べると、自殺者は、大抵肉體的にか若しくは精神的に變質者である。

或人が自殺者五百何十人かの死體を解剖した結果の報告を見るに

脳脊髓に變化ありしもの	二分の一
血行器に故障ありしもの	四分の一
體質の弱きもの	一割二分
酒精中毒	二割六分

とある。

此の外に、體質には見るべき變化なくても、或は早發性痴呆であるとか、或は酒精中毒であるとか、或はヒステリーであるとか、又或は神經性であるとかからして、下らぬことを近因として、若しくばホンの衝動から自殺するものが少なくない。されば『自殺者は身體か、精神か、若しくば兩方に、何等かの變化あるもの』と云ふも、敢て過言ではない。

■精神運動　伊藤證信、同朝子の兩君は、今回京都から東京に歸へられて、「精神運動」と云ふ雜誌を發刊されました。

■新婦人協會にては「花柳病男子の結婚制限に關する請願書」を今期議會に提出する筈にて、目下調印者を求めつゝあります。

■早川幸登様は一月一日夜母危篤の電報に接し、北海道へ御歸省致しましたが、幸にお母さんの御病氣がよくなりましたので、十四日に歸京されました。

□青柳キヨ様　青葉の舍の世話で、神田の高橋看護婦會へ入會しました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母親よ讀め

本間俊平

また誰も知れる話だが、ペスタロッチ先生が妻のアンナとヤコブと云ふ子供を伴ひ、一日屠豚場を見物した。その翌朝ヤコブ、の餘りに靜肅なるを怪しみ、母はヤコブやと叫びしに、私はヤコブでありません、豚殺しですと云ひ前日見たりし彼の屠場を造り、自らは主人となりて、想像に耽りつゝあつたと云ふことである。實に注意すべき事柄である。

予に三歲の女兒あり、頃日母と共に焚火にあたり居たるが、傍らなる一小木片を取りて喫煙の眞似を始めたり、全家數十人なるも喫煙者は一人もなきに、奇怪なりと思ひ取調べしに、近所に家屋を建築するものあり、二三日前より木挽工來りて、切りに喫煙しつゝあるを見て、それを彼が模倣したことが分つた。

又先年我家にありし一青年の、身は富豪の子にてありながら盜癖止ます、予は其の原因を調査して實に驚きし事がある。そは彼が幼少の頃、乳母に伴はれて郊外を散歩し、隣家の熟柿を採りて與へられた。そしてその乳母が、坊チャンのお家は金持でありますから、何所へ行て何をしても構ひませぬ。若し見付けられた時は、お父さんから御金を出して頂けば、それでよい。といつたのである。乳母は二歲か三歲の小兒であるから、何も分るまいと思つたであらうが、憐れやこの時、幼兒は惡魔の手に捕はれたのである。後、彼が到るところに惡事を働き、一回二回、五回、實に恐るべき犯罪人として、司獄官も、警察官も、警察も閉口させる樣な人間となつた。嗚呼、悲慘なる運命は斯くて彼の家を見舞ふに至つたのである。是等の例を擧げれば、際限なきほどである。實に母たるものゝ注意せなくては

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならぬ事と思ふ。

嘗て江原素六翁の御親戚の三歳の女の子供が突然カツポレを踊り出した。驚いて調べしに、一寸雇ふた下女が、毎朝、臺所で箒を三味線にして踊る眞似などした。それを見てしたことが分つた……（「勞働と信仰」から）

タドン成金

光二郎

ツイ正月にはお芝居へつれて行つてやると、子供に約束してあつたので、せがまれて一月二日に三人の子供と家を出ました。

五人の子供の中、長男は一日に活動へ行つたのでのこり、末子が少し加減が惡いので之れも母と共にのこり、私は三人の子供と共に出かけることになつたのでした。

途中で淺草の安芝居よりは、今朝の國民新聞にあつた「向島の七福神廻り」の方が面白からうと思ひ、子供に

「どうだ、雷門まで電車で行つて、吾妻橋から汽船にのり、鐘淵へ上陸し、多聞寺、白鬚神社、百花園、長命寺、弘福寺、三圍社と廻はつて、七福神の小さな像と素焼の寶船を求めてはどうだ、其の方がお芝居より面白いよ。」

と云ふと

「そうしようよ、そうしようよ。」

と調子よく賛成の聲が出たので、早速七福神廻りと決しました。

電車のこむことく\、どうやらこうやらしてやつとのる、吾妻橋から汽船にのる、今日は申分のない天氣なので、汽船の乘心地が殊によい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多聞寺へたどりついて、毘沙門天の像を求め(十銭)それから又土手の上に出て、白髯神社に赴く途中、酔拂つてる一人の男が、紙袋に煎豆を入れて手に持ち、向ふから鐘淵へ歸つて來る工女達に

「や、姉さん、豆は如何です。」

と豆をさしつける、女達は逃げる。すると酔拂先生、

「色が黒いとてソウきらいなさんな、之れでもタドン成金だぞ。」

と獨言して居るのを聞いて、思はず大笑しました。

「オイ〳〵、ほんとだらう、芝居より面白からう」

と云ふと、子供等も

「ほんとだわ、丸でお芝居ね」

と悦こびました。

白髯神社に壽老神(十銭)百花園に素焼の寶船と福祿壽(四拾銭)長命寺に辨財天(拾銭)弘福寺に布袋(拾銭)三囲社に惠比壽、大黒天(二拾銭)を求め、之れで七福神が揃ふと、もう夕方となりました。

急いで渡を渡つて、淺草公園に入ると、それは〳〵大變な人ごみ、子供をつれて歩くにホントに困難しました。やうやくのことで米久牛肉店へ入り込み、空腹を満たせて歸りました。

雷門で電車にのれず、厩橋まで歩いて乗れず、厩橋を渡り外手町まで行つてやつとのれました。

母の愛

「婦人の友」新年號に左の如き文がありました。

戸締をしない家

ウキバーといふ説教者が、スコットランドで説教した時のこと、聽いてゐた一人の堕落女が非常に感動して、會堂の床の上に卒倒してしまつた。

人々は驚いて死んだのだと言つた。醫者がやつて來た。脈を取つて見て、まだ生きてゐると言つた。間もなく女は起き直って

「私は今漸く改心いたしました、救主を見出しました」

と言つた。蓋し此の女は恐ろしい、罪の深みに沈んでゐたのであつた。

この女の家は、ブレアアソールといふ山中の一軒家、極めて貧乏な家だつた。この憐れな家に唯一人の母親を殘して、家出をしたのは九年前のことである。それからといふもの、この女は西に東に流れ廻つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、あらゆる墮落の底をあさつたのである。けれども改心した彼女は再び母親の許に歸つて、赦しを乞ふべく出發した。

漸く辿りついたのは夜だつた。夜も夜、もう夜中だつた。道は暗かつた。けれども小さい時分に歩き馴れた道である。次第に近づいた時かすかに燈火の色が見えた。けれども途中で、雨さへ降り出してびつしよ濡れになつてゐた。

やがて、家の前に立つた。そして靜かにコト〳〵と扉を叩いてみたけれども何の應答もなかつた。もとより夜中のことゝて、見すぼらしい箱を寢床としてゐる老いたる母は、戸外に此の事のあらうとは夢知らなかつたのである。

女は再び扉を叩いた。けれども答はなかつた。彼女は三たび、戸を叩き而して靜かに押してみた。ところが何のこともない、直ちにすつと開くのであつた。彼女は容易に中に入つた――家の中に小さな燈火が瞬いてゐる。彼女は燈火をたよりに疲れて勝手の知れてゐる母親の寢床の傍へ近寄つた。

その物音に、母親の目が覺めた。そして

「誰ですか」

と言つた。女は

「お母さん、私です」

と答へた。この聲、あゝ九年の間絶えて耳にしなかつた娘の聲に、母親は電氣にうたれたやうに飛び上つた。そして

「まあ歸つて呉れたか……」

と涙を流しながら、彼女を抱いた。そして直ちに、濡れた着物の代りに乾いた着物を着せた。温い食物を出して食べさせた。

彼女は、つぶさに己が不埒を詫びた。改心の事實を述べた。

母親の眼は感謝の喜悦に輝いた。それから、彼女は母親に問うた。

「お母さん、この物淋しい山中に、なぜにお母さんは今夜戸締をしないでお休みになつたのです。若しかの事があつては心配ぢやありませんか」

と。老いたる母親は、

「否とよ、今夜ばかりぢやない、お前が家出をしたその晩から、この九ケ年といふもの絶えて戸締をした事はないのですよ。お前が夜、夜中歸つても差支がないやうに、燈火を點けて鍵をかけずにおいたのだ」

と戸締をしなかつた次第を述べた。

又此の頃出版された、本間俊平氏の「勞働と信仰」の中に、左の如きお話がありました。

在獄中の一青年

曾て德島に在獄中の一靑年があつた。彼は中々の難物であつた。司獄官も、敎誨師も彼には閉口して仕舞つたのである。然るに彼の母は永々彼の不品行を憂慮し、人知れず流す涙に、遂に重き眼病に罹り、盲目も同樣になつて仕舞つた。母は遥かに在獄中の我子の身の上を思ひ遣り、暑熱酷しき日田畑に出でゝ鐵窓の下に呻吟する我子は今や暑を避くるに樹陰あるなく、浴して淸泉の水あるなゝ。定めてかゝる烈しき暑熱を感ずるあるならんと。或る時は終日むさくるしき厠に入りて傳へ聞けば監房とやらは、厠も一室の内にありとか、されば定めしかゝる臭にやあらんずらんと。又或る時には食を減じ、粗食して、我子はかゝる粗食をなしつゝあるならんと、千々に碎く心は、計らずも予の知る所となり、幸にして予はこの傳達者となるを得て、持ち扱ひ果てたる在獄中の一靑年は、めき〳〵と改悛する所あり云々。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人社會問題研究會の起つたのは、昨年夏のことです。九月に開く筈でした第一回講演會が種々の事情から、のび〳〵になつて居りましたが、いよ〳〵左の如くに開會致すことゝなりました。

婦人社會問題講演會

▼時・二月十四日午後六時より

▲處・神田美土代町　青年會館

辯士及演題

演題	肩書	辯士
婦人と社會問題		西川文子
職業婦人としての經驗から		塚本なか子
婦人參政權運動		奥むめお
人としての日本婦人の價値を論じて		鷲尾よし子
惡太郎の母	出獄人保護者	原胤昭
題未定	成女高等女學校長	宮田脩
題未定	女子醫學專門學校長 東京至誠病院長	吉岡彌生
子供の教育と社會の責任	常盤松高等女學校長	三角錫子

發起　婦人社會問題研究會

凋みし花の行衛

村尾雅子

老婦人は今日も火鉢によりつゝ考へ續けて居る、彼女の頭の中には樣々な思ひがくりかへされてゐる。

『あゝもう直ぐにあれの祥日です』つぶやくやうに言つて淋しく後の佛壇を振かへつた。そこには亡くなつた彼女の娘の寫眞が飾られてある。『あゝあれが入院して……死んでしまつた後、自分はこの世の中に生き介のない身となり、光明のすべてを失つて了つたのだ。あれは優しいおとなしい子で、自分には一度も逆らつた事なく、皆に慕はれて其の幸福も羨まれて居た。然し果敢なくなつた今日、何が幸福であつたらう。小さい頃のあれは自分の唯一の寶でした。本當に白銀にも黄金にもたとへられぬ寶だつたのでした。いつも赤い袖を振りつゝ『母樣』と走つて來た可愛らしい姿！あの小さい子が大人らしくきちんと座つてお手前をした時、今でも目の前に浮んで來る、たわいもない事を言つては人の笑ひを不思議がつて居た。あの頃自分は若かつた。夫も生きて居た、この白くなりかけた髮も艶々しかつた。大きな丸まげに結うて人に髮の美しさを誇つて居た。上の男の子達は何の屈託もなく成長していつた。思へばあの頃が一番幸福な時代であつたのか。自分には兩親はなかつたけれども、優しい伯父があつた。何の不足も感じることはなかつたのです。

併し、それも暫らくの夢で、賴みに思つて居た伯父は不治の病が元で黄泉の客となつた。其の頃一番上は縣廳の役人になつて居た。次の二人は中學へ出て居た日露戰爭が始まつた。總領は看護長として出征した。不安の年は暮れて翌年、戰爭は終つたけれど、彼は歸らなんだ、永久に南滿の土と消えはてゝ！

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國の爲だ、忠義の爲だと慰めあふ二人の目にはいつも涙がにじんで居た。夫は其の頃から心臓病で枕に親むやうになつた。二番目は嫁を取つた、それを見ると安心したのだらう、妻子の心を盡した看護の効もなく彼は息子のあとを追ふた、それは戰後わづかに三年の出來事であつた。その後は自分の最も苦しんだ時代であつた。たゞ子あるが爲に、働いた〳〵力の限り働いた。

そして人のそしりを受けることなしに子供等は學校を終へた。二番目には二人の子が出來た。

三番目も軍人として世に立つやうになつた。女の子も中尉夫人としてせまい町では尊敬を受けて居た。自分が人世に於ける成功者だと悦んだのはどれだけの間であつたらう。自分の最も賴んで居た娘は自分を置いて死んでしまつた。習はせた數々の藝事は何のためであつたらう。あのいつも引いた琴の音が耳許でするやうだ。話す聲が聞えるやうだ。

あの病院の暗い室の中に『痛い〳〵』と喘きつゝ死んでいつたあれは……

あゝ私に取つてあれは生命であつたのだ。無邪氣な笑ひ聲の主がいつかは自分の手許にかへつて來る日があるやうに思へる。然し駄目だ。あの體は、小さい肉體はそら悲しい燒場の煙と化して天の一方へ消えてしまつた。最期をかざるべく、盛にしてやつた葬式の行列。

その後播州の山中の土まんじゆうの下に一人淋しく葬むられた。花は時折親切な人の手によつて代へられるといふ。けれど淋しからう。

あれの夢を見ることが今では唯一の慰安なのだ、まれに見る其の夢をたのしみに其の日〳〵を暮して居る末の男の子は去年死にかけた。あの時の事を思へば本當に恐ろしい、自分は悲しさに絶望の胸をいだきつゝ死の方法を考へて居た。駄目だといはれて危篤の電報を打つた時、あゝけれども彼は全快することが出來た同じ病でなほつたといふ話を聞く度にあきらめ得ぬのはあれ（娘）のことばかりである。可愛い娘を父は損

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて居たのだ。父の病毒は子の口へそゝがれて居たのです。悪い〳〵と思ひつゝ止め得なんだ意氣地ない自分にも責任はある。

あれが蓮の臺の上に座つて居る夢を見た。きつと極樂へいつて居るのだらう。そしてやがては自分を招いてくれる日もあらう。

又、自分の身の周圍をかへり見る。矢張蕾の花と散つたものは澤山ある。唯一人の姉も二十二の春を最期としていつてしまつた。姪もたつた一週二週の病で散つた甥の子、かの女は涙のために生れた子であつた。放蕩な父を持つた九歳の少女は孝行な子であつた。母に棄てられながらも父を守つて居た。父を信仰の道へ導いていつた。けれどいたいけない花は蕾のまゝ固い〳〵蕾をひらく日をまち得ずに地に歸つてしまつた。臨終の折の有樣は思つても涙がこぼれる。母に逢ひたいとはいはなんだ。心強くもすてた母は慕はなんだけれど心の中の悲しさはどんなであつたらう。「母さんに貰つた本を出して頂戴」といつて渡された繪本をしつかりと胸にいだきつゝ、父と弟の手を握つてそのまゝ息がたへた。其の後その子の父も死んだ。

あゝ盛りの時をまつ暇もなく、空しく地にかへつた花の數々。後に殘つたあはれな親のやるせない胸に再び蘇りさく日はないのであらうか。あゝ凋みゆきし花の行方や何處。

三角錫子

みづからを人と思へばなげかるゝ事の數多もゑみてすごしつ

女ゆゑに妻ともなりぬ母となりぬ人となる日のいつかしらなく

いと弱き女と生れ神にゆく道の近きを喜びぬけふ

つよきわが心をのろひ弱きわが心を恐れたゞひとりすむ

ともすればあさましきまで冷やかに物の影見る我が心かな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

讀書涓滴

東大寺太代

元旦の竈を燃しつけるまでに讀んだ創作と文藝評論とを、親しい誌友諸姉にも御紹介致したいと思ひ立ちました。第一に讀んだのが、石坂養平氏の『個人と社會との相制』(新潮)

『個人が社會を作り、作られた社會が個人を作る、其生成の過程には兩者の循環的相制が刻々に行はれる筈である。既に循環的といふからには、循環小數の展開が無限なるが如くこの相制は無限に繼續すると見て差支へない、さうして個人が社會を作るのも、作られた社會が個人を作るのも、其期するところは個人の完成の爲め、個性の發展の爲に外ならぬ。

が然し個人と社會との間に行はるゝ制御の横斷面をとつて見れば、或る時代には個人に對する社會の制御が顯著であり、或る時代には社會に對する個人の制御が強烈であり、又或時代には兩者の相互的制御力が殆ど平衡を保つてゐる事もある。――徳川時代の如き封建時代は、社會が個人を制した時代であり明治維新を中心とした十數年間は、個人が社會を制した時代であり、日清戰後の十數年間は個人と社會との制御力が、相互的に行はれた漸進時代であつた……。

この意味に於て世界大戰後はどうか、俗に世界改造の時代だといはれる今日はどうか。恐らく現在に於ては社會が個人を制する力が勝つてゐるであらう。然し一旦社會の爲めに制せられた個人は直ちに社會に反應を及ぼして、社會を制御する、云はゞ今日は個人と、社會との制御が端的に、短時日を週期として行はれる廻轉時代だ。(中略)今日の社會組織には經濟觀念が深く喰ひ込んでゐる。經濟生活が確立しなければ到底社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會生活を營むことはできない……。だから個人と社會との制御的過程を中心にする文學者は、この社會の數理的科學的錯綜を充分に研究しなければ、到底社會的背景の濃厚な作品は生れない。」

次に見たのは藤森成吉氏の「狂つた友達」であつた。これは今年最初に讀んだ創作といふばかりでなく、新年特別號の十二作家――殊に畏敬してゐる芥川氏の、「舞踏會」讀了後にあつても、なほかつ大なる力の籠つた眞面目な力作として、味ふ事ができると思ふ。それ程私の心を強く執へた理由の一つといふのは、此薄幸な若い主人公に母親が無かつた……母親の盲目的な愛情といふものを知らずに成長した、飯田孝一郎といふ青年の陰鬱な性情がよく出てゐると云ふばかりではなく、頑な、律義すぎ、遠慮過ぎるこの青年をそうした孤獨の世界へ陷れた多大の原因を、母無くして成長して來たカタワ的な生活にあると暗示してゐるのが嬉しく感じられたからである。「母親の愛情といふものは或る意味では此の世の中での、一番盲目的なものだ。どんな冷たい母親でも、それが母性である限り、たとひ表面には現はれて來なくとも、子供に對しては一種無理屈な、全く理由を絕して了つたやうな、滅茶苦茶な、たゞ何物をでも與へたい――物吝みを知らない心を、其底に收つてゐる――そうして飯田君は、嘗て其母親の心の滅茶苦茶さに觸れる機會が無かつた爲に、其心持に對する理解が缺乏してゐて、理性的な物の理解が附かない限りは、直ぐに萬事に動く事が出來なかつたとは果して云へるだらうか。」と異性である作者は謙讓な言葉づかひを以て、この青年の或る共同生活に適かない事を、十分の同情をもつて歎じて居る――主人公飯田はある火山系の連山で取圍まれた寒い山國の中學の秀才であつた。卒業後、郷里の財產家の世話で高商へ入る事ができた、彼は高原人特有のカサカサした性情を有つてゐた。「その實奇妙に脆く砕け易いやうな、澄んでどことなく角々しいやうに感せられながら、或る場合には其角々しさと澄明さとに自分自ら堪へられなくなるやうな――、云はゞそう云つた氣質が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

肉體の方へいつも響いてゆく、又肉體の組織や成生が逆に精神の方へ絶えず響いてゐると云つたやうな調子だ、さうして大低の場合には、質素に勤勉に、すべての可能性を飽くまでも冷靜に考察して、同じ事を幾らでも繰り返してやつてゐるが、一旦どうかして一氣に速るとなると、もう其外の事はスッカリ忘れ、宛然盲目にでもなつたやうに、夢中にその一つの目的へ突進する――』と狂的な素質を郷里に結びつけ其上母親が氣が狂つて幼時に去つた事、父親の絹介な事等を、律義に説明してある、全くこの作者のものと芥川氏のものとを併せ讀んで見ると、どうしても人と土といふものが、深い深い關係を相及ばしてゐると儼な感じを與へられる、人はどうしても土と離れることはできない……。其樣に、幼兒は母親と別れてはならない……。

と、（一月七日朝）

同郷人

東大寺太代

碧空は高いが、菊一鉢ない恒子の家には、抜かずにある夏からの草が、そこゝちゞ穢く霜枯れてゐた。がそう近よらすに、一間隔つた勝手の方から庭を見る時は、そうした荒凉たる状は眸に入らずに、此地方には珍らしい京都種の楓樹が、小さい庭一ぱいに照り輝いてゐた。

恒子は今年も此楓樹をもつて此家を退かねばならぬ――と今も考慮へて居た。

夫れはこの五月末の事で、二月ばかり家賃が滯つた時の事である。此楓と同年生れの三男の英三が重い痳疹で臥床てゐた折、家主から來た使の者の口上は恁うであつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「お家賃を貰つて來なければ、貴樣の頭をぶん毆るぞ……つて旦那が言つたんですから、頂いて歸らなくちやあ……」どうでも今渡されぬものならば、明日にも空けて呉れ、と十二三の使の小僧は什う言ひ聞せてもいつかな訊かなかつた。恒子も當惑して了つた。

「ぢや明日朝屆ける事にしませう」

明朝屹度屆けるからと、宥めつ賺しつ、そうした使の者を執へて哀訴したのであつたが、小僧も恐ろしい主人の眼色を思ひ浮べるものか、ます／＼身を縮めるやうにして「だつて頂いて歸らなくちやあ」と繰り返して動かなかつた。恒子も初めは強情な小僧だと小憎くも思つたが、結局は這麼者を板挾みに爲てゐる自分の無力を念うて立上つた――。家主の主人である小學校の訓導を町立の小學校へ訪ねて見やうとしたのである。

「母ちやん何處へいくの？」

「お、起つきしたの？ 母ちやんは直き歸つて來ますからね、其間小僧さんが居て呉れるからね」と緣に腰かけてゐる小僧の方を見遣つて、其同じ眼を再び病める我兒へ移し、

「待ち待ち爲てゝ頂戴、いゝ兒ね」

「否だよ、往つちやあ否だよ、否だあ……」

小さい病人は泣き出した、けれども小僧は尙ちつと身動きもせずに緊張してゐる、恒子は良腹立だしげにそうした小僧に一瞥を與へたが、我兒の泣聲を背に受けたまゝ、とん／＼と駈け出した。

「さ、小僧さん、もう叱られや爲ないから歸つて下さい……叱られないつてば、早く歸らなきやあ、それこそお目玉だわ」

今家主の主人から見て來た不快な感情や、それよりも何よりも可憐な病人を打抛つて出ていつた。自分自身の邪慳な行爲やらが反省られて、言ふに言はれぬ腹立たしさを彼女は覺えた。そうした新舊のいやな想念が、看病疲れのした恒子の頭腦の中を前後になつてぐる／＼走り舞ふてゐた。が一二度は多分拳固で腦天を擲たれた事のあるらしい小僧は、それでもまだ無手で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歸される事を遂つた、と恒子はもう／＼堪らないといふ風に、とう／＼其麼に言ひ放つて、小僧の見えない室の隅へ來て了つた。とは言へどこどこ迄も不安そうに、終にとぼ／＼首枕れてゆく彼の後姿を見た時はどうでも可憐しくて、呼び止めて了つた。

「一寸、小僧さん待つて頂戴な」

子供にと、ほんの少し計り買つて來た輕燒の袋を、彼の胸の邊へもつていつた。

「要りません！」

「少々だわ、歸途でも食べて下さいよ」

「要らないよう……」

小僧は初めて勢づいて、追はれるもの丶如くに、後をも見ず道路を折れ曲つた。恒子も眞晝の路傍に茫然突立つた――。

「母ちやんよう……」

我に歸つて、漸く蓐床の傍まで來はしたが、心持はまだ平穩でなかつた。小僧が小さい菓子袋を快くとらなかつた、といふ事がそれ程心を傷ましめた事であつたらうか？……。

「病人が快癒つたら越して了はう」其時移轉を決意したのである、然しそう一人で決めは爲たが、盛夏の頃は楓樹を移植すのによくないと思うて堪へた。其他、貸家の少いことや經濟上の都合でとう／＼十一月も末に近くなつた。

さて其楓樹といふのは、恒子の母が京都の田舍から遥々もつて來たもので、それも十一月の下旬の事であつた。

「滿七年になりますの」

恒子は其廻緣の東寄に腰掛けてゐる女客にそう言つた。若い客人はそれに對して優しく微笑み、約ましやかに膝にのせてゐた兩手を摺り揉んだ、もうすつかり黄色くなつてゐた片隅の紫陽花や、家相應な脊の低い松だの、檜葉だの丶間に點在してゐる、二人の女性には言ひ知らぬ懷しみを持つてゐる故郷の楓樹を、兩人とも同じやうな眼で見てゐた。恒子は辭をついだ。

「其年の春、三軒屋の母の隱宅で芽を出したのですの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

え、母の持つて來ました時は小指程の丈でしたわ……五十一本、今はもうこの九本だけになりました。母も矢つ張りもみぢが好きで厶いましたわ。」

一息にそう多辯らしく言つて了うと、恒子は自分一人だけで味ふ言外のある意味を、心窃に賞味てみるやうに、細い湯呑を口へ當てた古びてはゐるがそれも京燒であつた。

「まあ一年近くもお隣りさんに居ましたのんになあ」

女客も生中今日明日に別れてゆく今になつて、徒うした知己になつた事を甚だ殘念に思ふらしく、辭數も極めて稀かつた。二人は少し異つた見方から、人々の離合と言ふことを考へさせられてゐた。

「切ては一月も早う御近付になつてゐましたらなあ」

まだとんと國訛りのぬけぬ隣家の細君は、恒子の育つた同じ京都市外の小學校へ通つてゐたといふ事であつた。軍人である良人に跟いて、かうした土地へ來てからといふもの、物さへ云へば人が變に瞬めるので、自づと無口に、憶病になつてゐたが、今日ばかりは思ひがけなくも其怖ぢけと遠慮とから引上げられて、滑らかな國言葉が使へるといふだけでも、彼女は什麽に恒子に會つた事を歡んでゐるか知れなかつた。

「時折御目に懸つてゐたんですのに、今日まで御挨拶もせずに登つたんですのね」

恒子も感慨深さうに、自分も嘗てはこの女のやうな綺麗な爪先を有つてゐたのに、一寸其手を取り上げて見たいと思つた位の親しみをもつて、其關西風の廣い衽や地味な袷の着こなしに見入つた。

「では御緣にこれを一本さし上げませう」

「それはまあ、でも私らの樣な旅鳥は何時何處へやられますやら判りまへんが、この土地を立ちます時には貴女樣のお母樣の御傍へでも、返させて貰ひまへうかな。」

「えゝそれはどうでもよう厶います」

ふとそう答へた恒子は、餘り其言葉が不愛想に響きは爲なかつたかと、ちらと初對面の美しい人を見遣つた。そして其感情を毀ねないやうにと、其母の墓地で

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある砂地には、どうにも此もみぢがつかぬ理由を語つた。そして丁度亡母の一週年が來るといふ其年の十一月に、眞赤に染つてゐた邸内の低いもみぢ林から十五本引抜いて墓側へもつていつた。が、然しそれは翌年の春になつても終にあの赤い可愛い丶芽は出さ無かつた

「まあ一本殘らず？」

恒子は輕く二度ばかり首肯いて、何とも言はずに微笑した。

一本餘さず全然枯らして了つたので、もう〳〵迚も駄目だらうとは思つたけれども、其翌年——母の三年の來ぬうちに——！、恒子は其夫と別れる事になつたので、又思ひ切つて十五本植ゑさせてみた。

「後のが二本ついただけですの」

「廿八本もなあ——まあ惜しいこと」

女客は細い眉を少し上げて、日當りのよくない爲に、異な格合に伸び上つてゐる、根元で漸く直徑一寸四五分の少い楓樹を、可傷そうに眺めた。恒子も失はれた、これと同じ時に芽ばえた楓の悲運を偲んだ。

「何しろ母が育て上げたやうなので、どうかして好きな樹でゞも圍ひができたらと存じましたんですが」とこの女の癖の吃り加減に良愚痴めいてゆくのを、遉に自分自らの辭であつたかと氣が付いてみれば、相手は今日初めて會つたも同様の同性ではなかつたか、たゞ同鄕人と言ふだけの女に、斯うまでくづをれてゐる自分を發見して、恒子ははつと面を外したが、耳朶は熱く火照つてゐた。(一月五日)未完。

手紙の中から

△杉浦樣より　御多忙中御懇切なる御返書有がたく繰り返し拜讀いたしました、まことに仰の如く普通の家庭に在る身ならば自から求めて苦しい思をしてかよわい女の身がわざ／＼今更都會に出やうなどゝ夢にも考へるわけでは御座いません、しかしそれにはいろ／＼込み入つた事情が御座いますので深く思ひ煩つた結果あの手紙を差し上げたので御座いました、私は目下父方の祖母の生家に養女として參つて居るのでございますお話が枝葉に亘りますが、元來當家は以前にも養子を貰つたのでしたがその者が夭死いたしましたので、只今の養母ゝ兩親が存命中協議の結果（今より十三四年前）その當時中學校に奉職して居りました父を母と私共（私と妹）ぐるみ呼び迎へて萬事を父に任せるつもりだつたのでございました、すると間も無く養母の兩親は前後して歿しました、養母は兩親の意志を繼ぎませんでした、そして幾年經つても父母の入籍は實現されませんでしたそして明治四十五年一月に至つて父母の方は除外して私と妹と丈を入籍致しました、その後大正四年の十一月に私の夫を迎へましたその以前人物を選擇する際に屢々父母及私と養母との間に意見の衝突があつたのでしたが一家の長であつて最も權力のある養母の意志は甚だ强固でありました爲遂に私共は多大の讓歩をさせられたのでした。今にして思へばこの時既に私に何とか覺悟があつたならと殘念に存じます、でその夫なる者は私とあまりに性格の相違が大きうございましたばかりでなく、一生を共にする夫としてお話にならぬ程人格の低い人間でありました、それは結婚後七八ケ月にしてよく知ることが出來ました。これまで隨分と苦しい境遇に忍耐して來ましたのも一つには將來夫となるべき者を心に描いて、せめて夫婦の間丈はお互に理解し慰め合つて心から融和して暮したいと樂しんで居つたからでありました、實際私は泣きましたそして考へました、このまゝにして居つて子供でも出來てしまつてはもはやどうする事も出來はしないと、そこで養母に私の心もちをすつかり打ち明けたのですが養母は眞面目にきいて與れません、仕方がありませんから父母に談して夫と寢室を別にして貰ひました、すると翌年三月彼は用事をこしらへて彼の實家に歸りましたが二ケ月過ぎても三ケ月たつても歸りませんでした。養母は媒酌人を以て頻りに歸宅を促します、私及私の兩親も殊の外不贊成であるのを熟知して居りながらそんな譯で同年八月に彼は再び歸つて參りましたが私は依然として居りますので翌大正七年五月彼は又實家に戻りました間もなく平生丈夫でありました、父が床に就きましたそれは過度の勞働が原因で腦膜炎を發したのでございます。併し思ふやうな看護も出來ずよい醫者にもかゝれません爲に病氣が非常に長引きまして、一年過ぎても本復いたしませんその間には危篤に瀕したことも度々御座いました、自分の家ならばたとへ家財を賣りつくしても及ぶ限りの手當をいたしませうものを食客同樣の身は他人は羨む財產家に居りながら、何一つ病人に滿足を與へることも出來ませんでした、妹などは每日泣いてばかり居りました私と母とはそれを見るさへいぢらしうございました。兎も角も命丈は取り止めました、そして本年の四五月頃にはいくらかつゝ快い方に向ひました、養母は兩親と妹の別家問題を持ち出しました、言ひ出したことは後へ引く性質ではありませんからその通りになるより外はありません。やうやくのことで室內の步行に堪へ得るばかりの病人を俥に乘せて隣村のあばらやに追ひやりました、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の時の悲慘な光景は私共親子の一生涯忘れることの出來ない印象であります、近頃はやうやく破屋の修繕も不足ながらも出來ますし父も餘程快復いたしましたので、母も妹も幾分安心致しました、父母等は別家は致しましたものゝ收入と申せば僅かばかりの父の恩給と一ヶ年廿俵ばかりの米があるばかりでございますので、いかに田舍の生活でもまことにみじめなものでございますけれど、養母は彼等に對して少しの補助も與へて吳れません、全く他人扱ひでございますしかも父母は當家に對し又養母の爲にこれまで盡したといふことは、非常によく盡したことは周知の事實でございます。一方私に對する養母は徹頭徹尾監視の目を離しません、激しい勞働こそ強ひませんが一々養母の指揮の下に無趣味極まる事の手傳ひをさせられます、それも修業　爲ならばよいとしてもたとへ暇が有りましても一切書物などを讀ませません、そして申ます農家の者が本などを見て居るやうでは仕方がないと、御外出などは全然禁止の有様でつひ近くに居る父母の許へすら一年に幾度といふ程しか參ることも出來ません、養母の考へでは人は衣食さへ足りればその外には何も必要はないと思つて居るのでせうけれど、活力の盛な者が殊に智識慾も相當にある人間がこれで滿足して居られませうか、しかしこれはたゞ自分一個の不滿に過ぎないのですから私があくまでこの境遇に忍耐するが爲に、父母の方が幾らか幸福になるといふならば私は何も申しません、けれど私の苦しみは徒勞に歸するのですから餘程考へねばならぬと存じます、なほ前述の夫の方はいまだにそのまゝになつて居ります（尤もまだ入籍もせず從つて婚姻屆も出さないのですから私の身丈は戶籍上自由であると存じます）が養母はそれに對して少しも心にかけぬらしく、どう始末をして吳れるのか誠に前途遼遠で御座います。

私が當家に居りますのにいつまでも今の狀態で居りましたなら或は世間からはいかにも財産の奴隸であるかのやうにあゝいふ待遇を受けながらよくも平氣で居るものだと申すでせう、それも誠に心苦しいわけで御座います（その實はいやしい事を申上げるやうでございますが私は養母から一ヶ年に二圓乃至三圓の小遣を與へられる丈なのでございます）いろ〱の方面から見ましてこれならばどんな苦しい思をしても獨立の生活をした方が優りはしないだらうかと考へます。

どうぞ事情御推察下さいましてこの際私の取るべき方針を具體的に御示し下さいませ、尙學資の補助は百圓乃至百五十圓位ならば調達が出來るかと存じます。

以上申上げました通り決して都會の贅澤な生活に憧れた次第では御座いません事を御察し下さいまし。（この手紙も養母の目をぬすみつゝ認めましたのでつひおくれました）亂筆、殊に申上げることも前後いたして居ります御判讀下さいませ。

△住山樣より　本年も愈々おしつまりさぞ御多忙の御事と察し候日頃は御無音にのみ打ち過ぎ相すみ申さず候每々雜誌御送り頂き有がたく拜見いたし居り候いつにかはらぬ御努力のほど感服いたし居り候就ては雜誌代甚だ延引に相成候へども年の瀨のおしつまるにつけあはてゝ御送り申上候間何卒御領收遊ばされ度候何卒御一同樣御揃ひよき新年をむかへさせられ候樣祈上候新年にも相成御暇もあらせられ候はゞちと御枉駕下され度御待ち申上候先は取り急ぎ右迄申聞候

△鷲尾樣より　尊翰拜披、婦人社會問題研究會御主催の趣至極結構の儀と存じ候日外申上候婦人は只今の小生妻に御座候田舍育ちの不調法者に候へ共數年來郷里秋田に於て文藝雜誌を主宰刊行致居候關係上多少同志勸誘等の御役に立ち可得歟と存候其內御伺爲致可申何分御指導

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

有之度候御通辭まで匆々

△森樣より　最早年内もおし迫つて參りまして何んだか心忙がしい頃と相成りました。御寒さの折から御許樣には御障りもあらせられず御暮しの御事と存じ上ます。扨ていつもながらまことに御無沙汰に打ち暮して居りまして御誌十月號より御値上げにもかゝわらず御送金致す事も忘れて居りました。まことに義理知らずの女と思召したゝで御座いませう。

これには深い事情がございまして、先日御聞へ申しました通りまだ父死亡後日淺く涙のかわく時がございませんでしたのに母は長のいたづきの處遂に八月十九日あらゆる私の心づくしも無にとう／＼黄泉の客となつてしまひました。かれて覺悟は致して居りましたがさすが凡婦の悲しさ、あれやこれやと思ひ出して亡母葬儀の墓前に於て俄に卒倒致しました。

其後は何の感覺もございませずやう／＼私の心づきました頃はすでに岐阜縣病院の病室に横たはつて四日間を打ち過ぎて來たのでございました。

腦充血とやらにて一時はなか／＼の危篤の狀態で醫者方も大變心配して下さいましたさうでございますがまだ私の命が盡きなかつたんでせうかはた又醫藥の効が有つたのでございませうかおかげ樣で追々快方に向ひまして十一月上旬一先づ退院致して參りました。其後姉方で專心加養して居りましたが何分寒さに向ふ折からと長のいたづきで身體の衰弱が甚だしいのさで思ふ樣にはか／＼しく養生が出來ませんから遂に先月廿七日再び表記當病院に入院致しました、右樣の次第でつひ／＼御送金も延引返す／＼も申譯けがございませんが、何卒惡しからず御許し下さいませ。

次に雜誌代半ケ年分及び今迄不足の分金壹圓五拾錢振込ませ置きましたから何卒御受取り下さいませ。

先は延引の段幾重にも御容赦下さいませ。

△M樣より　先達つては早速御返事下さいまして誠に有難うございました。

實は私こゝに告白申ますが只今高師專攻科受驗致し度く準備中なのであります。就きましては師範教育受けまして教鞭取つてをりますから心づけて少々貯金は致しましたなれ共受驗年に際限あります學校ですから資金こしらへる中に期を失して仕舞ふのです。けれ共石にかじりついても此青春期に今少し勉學致したいのであります。

ですから先生此少しばかりの貯金をもとでに半苦學生となつて如何なる手傳も致して三ケ年勉學致したいのであります。

兎に角受驗致して見なければ不明の事でありますから來る三月は一度受驗致して見ます。

どうか結果よろしくば御社へ御伺ひ申ますから御迷惑でありませうが何卒よろしく御指導仰ぎ度うひたすら願ひ申ます。

先は御願迄。早々

二仲　先生振替にて三圓四十錢送りましたそれは一ケ年分と御親切な御指導を御多忙にあらせられる御身でなし下さいました其の御心に感謝申してその感謝の心のしるし迄に僅少でありますがお贈り申して意を表しますのであります。どうか甚だ失禮でありますが此の田舍者の貧弱なる私の心を諒とせられましてお怒り遊ばされずお納め下さいまして何かのたしに相成り申しますならば此の上もない滿足に存ずる次第であります。

末筆乍ら先生の彌が上にも御健、幸、あれかしとお祈り申上ます。

記者申、私の樣なものでも本當に信賴して下されば、私の力で出來ない事は、同情者にすがつてゞも何としても御援助しやうと思ひます。只中途にして疑惑を起されるのは一番心苦しい事ですから。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

冲野岩三郎氏の宿命を拜見して

文子

先年大阪朝日の懸賞小說に當選された「宿命」は不幸にして、大阪朝日には其半分も發表されなかつたのでしたが、今度それを全部書き替えて單行本として發行されました。私は兼ね〴〵讀んで見たいものと憧がれてゐましたのですが、計らず著者の御寄送を受けて讀む事が出來ました。未熟なものが批評と云ふのはをこがましいわけですから、御紹介をいたしたいと思ひます。

著者は十年近くも紀州の新宮町で牧師をしてゐられました。其の間所有方面の人々、上は知識階級の人から、下は乞食の群に至るまで、或は交際し、或は說敎し、或は探訪して、氏獨特の鋭利な觀察眼を以て、或は溢るゝ樣な溫情のこもつた同情をもつて、接してゐられたのですから、其の人によつてかかれた此長編が普通創作家の小說と類を異にしてゐるのは今更らしく吹聽するまでもありません。十年間蘊蓄されて、破裂んばかりの氏の詩嚢からあふれ出たものがすなはちこれです。で其點から見て此宿命一冊に盛られた丈けの材料が、若し普通作家に扱はれたならば十冊にも二十冊にもなつたでしやう。それほど豐富なものです。かくも廣い舞臺面を、かくも長い人生を何等の澁滯も不自然もなくすら〳〵と扱はれたのは、驚くべき事ですが、聊さか材料が多過ぎる處から、ごちや〳〵してはいやすまいかと思はれる節もないではありません。何しろ五百餘頁の長編ですから、著者の苦心が思はれないわけではないが、さう思ひながらも、讀んでゐると

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實に面白くて讀みかけると、一氣に讀了して了はなくては手から離されません。
根本的には十數年前の或重大事件を中心として描かれたものですけれど、それは絶對にかく事を許されないので、全體に薄衣を着せたり、變へてはありますが遺傳的悲劇もあれば、戀のいきさつもあり、人生の凡ての出來事が織り込まれてゐて、終始氏の宿命的人生哲學で一貫されてあります。
全體の書振りが夏目漱石さんのものに酷似してゐて殊に「三四郎」によく似てゐる樣に思はれるのは、内容其ものが、双方とも著者の經驗や周圍の見聞から爲つて架空的空想や想像からなつたものでないからでしやうわけても時子さんと云ふ風變りのバイブルウーメンは夏目張の女性そつくりで美禰子さんを思はせられます。
私には此の書の材料が略ぼ推察されるので一種懷かしい故郷に歸つた樣な、又自己の歷史をかへりみる樣な心持ちはいたしますが、それ丈けに事實そのまゝであつて欲しいと云ふ強い〳〵欲求に驅られる處から、止むを得ず事實を曲げさせられてある處や、削除されてあるのをあつけなく感ずるのでした。
又讀みながら怎しても其時代を想記されるので、近頃らしい事實があつたり特殊な現代語が用ゐてあつたりするのを、時代錯誤として、氣分が離れてしつくりとそぐはぬ樣に思はれるのは私としては止むを得ませんが、未知の人で、普通の小說として讀まれる人には其麽事もなく、一層興味ある事と思はれます。
書中古座ナオミさんと云ふ、やはり基督敎婦で多年家庭敎師として大伴家に信頼されてゐる婦人の性格がよく描かれてゐます。眞直な竹の樣な性格の中に、撫子の樣な優しみを備へた人です。順從な中にも動かす事の出來ぬものゝある、この婦人こそ著者の令夫人だらうと察せられます。それ故にかく明瞭に寫し得られたのだらうと思はれます。
然かし此著は決して只一篇の小說と云ふものではなく、或尊き記錄としても、永久に保存さるべきものだらうと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聖女の死

西川文

屋内のバケツにも可成り分厚い氷の張る嚴寒の二月の初めである。水道の栓をねぢつてもポタリともせぬ富子は仕方なしにひしやくの頭でガチリと破つて氷一片を乾き切つた口にふくんだ。ひよろ〳〵とひよろめく足でたどりながら二階の寢床に戻つた。四十度からの熱に乾き切つた口が一片の氷でやつと濕つたかと思ふ間もなく又ぴり〳〵と唇が裂ける樣な渴を告げた。

隣りの寢床にすや〳〵と深い睡眠に落ちてゐる夫を呼び醒まして賴まうかと思つたが、それには富子はあまりに小膽だつた。ふだんから夫に威嚇されつけてゐた。其の中に富子は意識を失つたか、もう渴きを覺えはしなかつたが、其充血したかさ〳〵の唇から

「神もくそもあつたもんか」

「いま〳〵しい」

「くやしい」

と黄い尖つた聲が飛ぶ樣に溢れ出た。

いまゝで熟睡してゐた隣の夫は反撥する樣に、半無意識ではね起きた。

「富子！　富子！」

神樣らしい威嚴をつけて呼んで見たが、もう病妻は目をつむつてゐた。何事もなかつた前よりもひつそりとした夜氣が身に浸んだ。

富子がかうした狂亂めいた言を口走る樣になつたのは、富子の肉體の衰弱がずつとひどくなつた正月の半頃からである。其の都度夫の神樣の神經は極度にいら〳〵させられるのだつた。それもその筈彼は渠自身を神と公言してゐるのだから。

自然そうした富子の言を若い二人の弟子に訊かすま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いく\とつとめるのだつた。

ずつと以前富子の病氣がそんなにもひどくならなかつた頃、夫の留守中に岸と云ふ弟子が看護してゐると富子はふと

『岸さん、私が死んだら悲しいと思ひますか。』

と問ふた。

信仰にもえてゐる岸は、

『はい怎しやうかと思ふほど悲しく淋しく、私の精神は戸迷ひます。』

と答へた。

富子はそれを訊いてもうれしいとも何とも思はぬらしい無表情の顔をしてゐたが、初めに話してみやうかと思つたらしい事はもう口をつぐんで、それ切り云はなかつた。のみならず、

『何が淋しい？　神樣がゐるではないか』

と嚴そかに彈かれた樣に云つて了つた。

けれどもそれは習慣の彈力に過ぎなかつた今の富子には心にもない穴言であつた。

岸は又富子の、

『何が淋しい？　神樣がゐるではないか』

と云つたのに何の不思議をも不自然をも見出さなかつた。從來の堅固な富子の信仰に照してさうあるべき筈だつたので。

富子は心にもない事を云つて了つた。不安と焦慮とに耐え切れぬほどの淋しさを感じた。

その後も富子は病床で考へれば考へるほど口惜しい悔恨と慚愧と寂寞の虜となるのを怎する事も出來なかつた。

あたら若い命を囚はれてゐたんだ、さうだ其捕手は自由と云ふ不思議な捕手であつた。神と云ふ捕縛者であつた。

充實と云ふ空虚であつた。

口に神の生活を云ひ、自由を宣傳し、內容充實を叫んで來た自分は果して何を得てゐたであらう。

親に叛き兄と爭ひ家を飛び出して、目に見えぬ檻に入り、我から足かせ手かせをはめて居たんだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同じ肉身の親兄弟を捨てゝも、人は墮落と云ひ、地獄に落ちたと罵らうが、本能のまゝに動いてゐたのならばまだ若い間丈は生甲斐のある生活をしてゐたものを。之れ程には恨も悔もなからうのに。

富子は垢づいた蒲團をかんだ。處々破れて綿のはみ出してゐる夜具を矢庭につかんで引かぶつた。

富子の幼い時は無邪氣な怜悧な快活な愛くるしい乙女だつた。

やゝ大きくなつてからは繼母と嫂とに苦しめられてそれと鬪ひつゞけてゐる中に、いつしか可成頑固な精神の持主となつて居た。

或年の夏、耐えがたい思を胸に抱いて九段坂を下りやうとすると、三ッ辻に立つて嚴そかに熱辯を振つてゐるものがあつた。

富子は其時立止つて耳を傾けた、それが富子を今日あらしめた最初の一歩だつた。

爾來富子は其時の熱辯家の唯一人の弟子として、家婦として所有貧苦と鬪つてゐた、其の上句二三年前から全國を叫び廻つて來た。

或時は友の家に、或時は求道者に、或は惠深き人の懷に宿つて歩いたのだつたが、雨にぬれ夜露にかゝつて親子三人野宿した樣な事も珍らしくなかつた。

二人は晴子と云ふ素晴らしい元氣でやんちやんな三つの女兒をつれてゐた。其旅行で富子は感冒に犯されたのだつたが、熱のあるのを押してかまはず怒鳴りつゞけて來た末がどう／＼肺結核までこぎつけて了つたのである。

去年の夏も大學病院で死に瀕したのだつたが、やゝ小康を得て退院して間もなく、上野公園の大石の上（こゝは多年彼と彼女とに許された野外教壇である）で夫は叫び、彼女は娘のはげしいいたづらを、

「晴ちやん！晴ちやん！」

と制しながらついて歩いてゐた。

その中に秋雨が時雨れて來て、寒氣が一時におそつた。

その日再發したのが今度の富子の病つきだつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夏の病院生活は官費で不自由だつたとは云ひながら、何の考へる事もなく極呑氣に休んでゐられた。盲目的信仰の火も燃えてゐて精神は至つて平安だつた。かうして自宅で病床についてみると不自由だらけな所からもいろ／＼の事を考へさせられる。神と自稱する嚴めしい夫には凡婦の心理は到底理解しられさうもない。

「何と云つてももうおしまいだ」

富子は今度こそ怎しても立てない樣な豫感がする。肉體は消えかゝつてゐながら、不思議にも却つて精神ははつきり／＼、健全な人の樣な本能さへむら／＼と蠢動くのであつた。

富子が神樣の弟子となり妻となつたのはあまりに若かつた。まだ自己が目醒めてゐなかつた。

丁度若い芽生えが大きな石に壓しつけられた樣なものであつた。

凡ての男性は女性を威壓し易い、凡ての女性は男性に對してメスメリズムにかゝり易い、それが夫に對する場合特に甚しい。

富子の夫は人一倍、同じ男性をさへ壓迫せでは止まぬ性格なのだから、手近な弱い富子を小鳥の樣におさへてゐた事に何の不思議があらう。

「今更此の神樣を信じないなんて——」

彼は顏をしかめた。

けれども富子の狂亂めいた、うわ言は止まなかつた。

「神、我を信ぜよ、神の生活」

何と云ふ空虛なうわ言だつたゞらう。

今こそ私は眞實に目醒めたのだ。

何んでこれがうわ言?。

「まあ何と云ふ神々しい、平和な安らかな天使でしやう。」

富子が神に召されたと云ふ彼女の夫からの報らせを受けて、悔みに來た信者は拜んだ。

夫の牧師は嚴かに告げるのだつた。

「富子は天國に召される時云ひました」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「神を信じ、牧師を補け信仰生活をして衆生を悉く神のみ國に來らしめる樣に、」
と弟子達に敎訓を垂れた、彼女こそ聖女であつた」
と。
「いかにも平和な歡喜に滿ち充ちた昇天です」
友人のH牧師は默禱した。
眞實にかくも榮えに輝いて昇天されたお尊顏は拜んだ事が厶いません。」
「富子さんはお幸でした。」
「天國は富子さんの爲めに作られてあつたのです。」
女も男も口々に讃めたゝえた。
富子の病中死に瀕して訝疑に陷つた狂亂の樣子を薄々知つてゐた、二人の弟子も、死に臨んで、H牧師の說法祈禱によつて、すつかり安心して瞑目したものと信じてゐるのだつた。
實はH牧師の祈禱した時は、富子の目は、既に永久に眠つてゐた。富子の魂は既に〳〵遠く肉體を離れてゐた。

それから數旬ならずして、
「聖女富子」
と云ふ彼女の傳記が草された。それには彼女は夫牧師の手に救はれ信仰に生き、それからは彼女の聖なる熱火が夫の信仰を燃やし、勵まし、信徒の凡てを導いたのだと書いてあつた。

青木しん子樣の御逝去

長谷川壓壽子樣より「會員青木しん樣早川きみ子樣の逝去につき」云々と云ふおはがきを校正中の只今受取ました。
青木樣は辯護士徹二氏の令夫人で、鴨沂會東京支部の幹事として、古川樣谷井樣其他の方々と茲二ヶ年間一方ならぬ御盡力をして下さいました。或時は何とかして多くの會員の出席さるゝ樣にと自働車で勸誘して廻はられたり、當日は御手傳の方まで伴はれての懇切なる接待振は一同會員の感謝してゐた處でした。夫人は新らしい明確な頭腦を持つてゐられて會をもつと有意義なものにしたいと云ふ心から切望してゐられました。昨年幹事の引次を御報告旁々牛田先生を御訪れ申上げやうとした時、谷井樣と御一しよに始めて夫人の御宅に御立寄しました多くのお子さんのお母樣としてお優しいお夫人は「私があんまり甘いものですから、サッカーリンお母樣だつて云はれます」とお四つ位のお孃樣をかへりみて仰せられよした。其サッカリンお母樣をお先立てになつたお子樣方やお父樣の御心事をお察し申上て胸が一杯になりま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す。私の雜誌についてももつと面白くする工夫なと云つて下さつたり、私もその後よき御考案を伺ひに上りますと申上げて御別れしたのでしたが、こんなに早くこんな事にならうとは、何と云ふ殘り惜しい事でしやう。夫人はしんみりとした實に人懷かしい御性格の方でしたのに、どうしてかくも惜しき人が夭く逝かるゝのでしやう。

女子修養塾特約宿泊所

女子修養塾青葉の舍にては、かねて職業婦人の爲めに、理想的の宿泊所を設けたいとの希望でした、がどうも適當な家がないので、致し方がありません。所が神田北神保町十一番陽亭、宮武はる子さんが、ソレは私の方で引受けてあげてもよろしいとのことで、渡りに船と早速そう云ふことに願ひました。宮武さん夫妻は共に教育に立派な經驗がある方で、確實で親切な方であります。就ては職業婦人で適當の宿所を求めらるる方々は、御相談下さい、尚ほ本誌の愛讀者諸姉の家族の方なり、御知人の方なりが御上京の場合には、前以て御相談下されますと、御便宜を計ります。

青葉の舍規約

一、職を求むる婦人、學資の足らぬ婦人、求職者其の他の相談に應じ、職業の周旋を爲すと共に、場合によりては一時本舍に收容保護するを以て目的とす。

二、本舍が御世話せし人々を會員とし、會員は其の目的を遂せし後、本舍へ任意の感謝金を寄附すべき義務あるものとします。

三、本舍の經費は、會員の感謝金と、名譽賛助員の寄附金を以て支辨します。

四、本舍の報告は、凡て新眞婦人誌上で發表します。

青葉の舍賛助員芳名

新渡戸稻造氏　高島平三郎氏　與謝野晶子氏
吉岡彌生氏　戸野みちえ氏　宮武はる氏
東大寺太代氏　小村夏子氏　中村久六氏
中島徳太郎氏　横山幸次郎氏　古谷精一氏
石川貞吉氏　高島米峰氏　伊藤きん氏
鈴木楠二氏　武居佐十郎氏　逸見斧吉氏
遠藤はつ氏　竹内茂代氏　澁澤榮一氏
中村松乃氏　小川榮一氏　森村市左衛門氏
大倉喜八郎氏　戸板せき氏　齋藤紀一氏
鎌田せい氏　名生ゆき氏　長谷川廬春氏
櫛昌三郎氏　柿花啓正氏

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊（郵税共）貳拾錢
半年分（郵税共前金）壹圓廿錢
一年分（郵税共前金）貳圓四拾錢

◉新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正九年一月廿八日印刷納本
大正九年二月一日發行

本郷區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

下谷區入谷町三百九十六番地
印刷所　博眞堂

東京市本郷區駒込動坂町三二七
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA